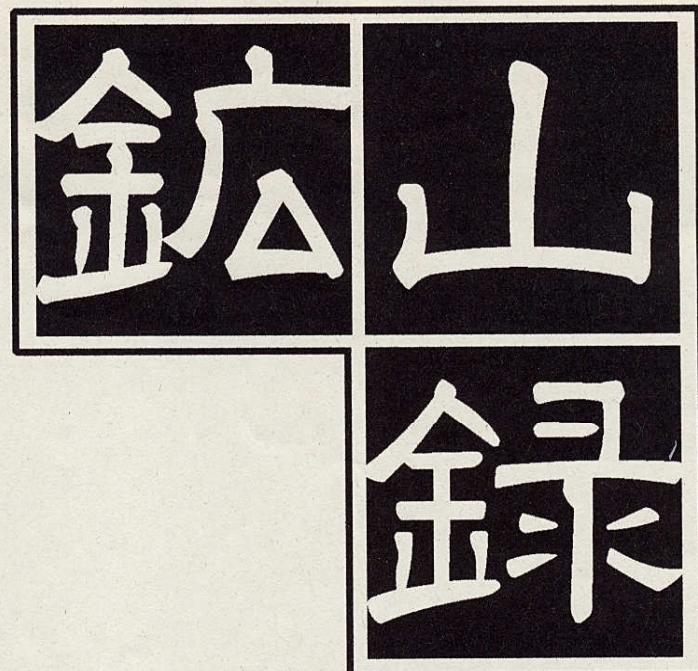


The Correspondence of
Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



にほんあまがえる

Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 5
July 2003

特集

ふおれすと鉱山とボランティア.....	2
オープンから 13 ヶ月の活動報告.....	4
使える小ネタ集.....	5
リトル・ヴォイス～リレーエッセイ～	7
お知らせ&わいるどれしひ.....	8

ふあれすと鉱山とボランティア

ボランティアあってこそこの施設
どんな関係を作っていくといいのかな。

ふあれすと鉱山がきて、2年目。地域ボランティアの力と技が、ますます「かたち」となってあらわれはじめています。例えば、「モモンガくらぶ」の主催事業がはじまり、市民・モモンガくらぶの参画がスペシャルウィークを成功に導いたり。ふあれすと鉱山が、ボランティアのみなさんと一緒に活動していく場となってきています。

こうやったからできた

「来年は、モモンガの得意技、披露してみるか。」…ふあれすと鉱山支援ボランティア組織

「モモンガくらぶ」の年度末報告会で出た一言。モモンガくらぶの会員の中には、山登りの達人、野鳥の達人、魚の達人たちがいます。達人にまでは及ばなくっても、趣味の野点（のだて）、クラフト作り、はたまた大宴会の進行まで。「自分が楽しいと思うことを人に伝え、みんなで楽しむ」機会を月に一回、主催事業として、打ち立てました。それが、それが大盛況！

また、多くの市民・モモンガくらぶの参画によって成功した「GWスペシャルウィーク」（詳細は、活動報告をお読み下さい）。このスペシャルウィークに関わってくれたボランティアスタッフは、延べ90名にもなりました。コラボレーションのおかげで大成功をおさめた、ひとつの「かたち」です。

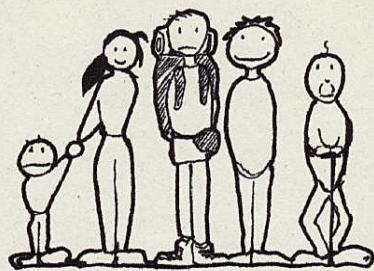
「Eさん、花のおもしろさを子どもたちにどうしたら伝えられると思う？」「Uさん、おもいっきり、子どもら遊ばせたいんだけど、なんかいいのある？」「生き物ってどうしたらみせられる？M博士？」などと、市民団体のみなさんが自分たちで展開するプログラムの内容について、頼りにしてくれようになりました。しかも、私たちスタッフの個性、得意分野を周知しての依頼。私たちとボランティアのみなさんとの間に、1年間の活動を通じて、より深い関係が築き上げられてきた結果だと思っています。



でも、こうしたらもっとよくなるんじゃない?

実際、ボランティアのみなさんも、毎回、ふおれすと鉱山のお手伝いに来られるわけではありません。また、若手のボランティアも少ないので現状です。まだまだふおれすと鉱山が集まりやすい場にならないないんだと思っています。

みんなが来てくれるには何が必要なのでしょうか。ひとつは、いろんな世代、いろんな目的の人がもっと居心地よくいられる空間を作ること。そして、より様々な世代の人々の参画を促すこと。いろんな世代といろんなことをやる人が、いろんな情報交換をするようになると、ふおれすと鉱山はもっとよくなるのではないか。



こうしていこう

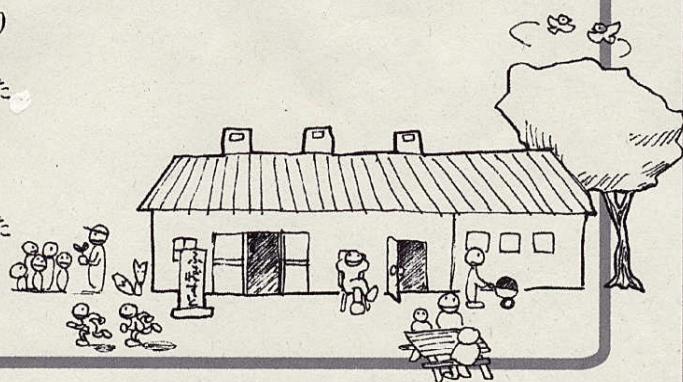
前回の特集で、「コラボレーションとは、協働というよりむしろ、救いの手である」というお話をしました。私たちにとっては、ボランティアのみなさんの手は、本当に「救い」そのものなのですが、その分、一方的にお願いしていることのほうが、まだまだ多いような気がします。ボランティアとして関わったみなさんが、お手伝いだけじゃなく「何か」を持って帰ることができる。そんな場でありたい。例えば、それが達成感であったり、充実感であったり、仲間であったり、楽しみであったり。それが、自分が求めたものであるということが大事だと思っています。

ふおれすと鉱山で自分がやりたいことが実現できる、自分も成長できる。そしてその結果が地域の教育力を高めていく。そんな場になっていければ素敵だな。

(遠藤)

昔むかし 金や銀がとれた山がありました…
そこに時代という風が吹き込み ひとは集まり
時代という時が流れ ひとは流れ
そして切り開かれた森と古い校舎が残りました

やがて校舎は 生まれ変わり
そこには 地域のいろんなひとたちが
関わってできていくものがたくさんありました
そしてそこには いつも 楽しそうな
ひとたちのこえが 韶き渡っているのです



ふおれすと鉱山の
グラウンドが変身し
ているのをご存知で
すか。昨年までは土
のグラウンドでした
が、今年、張り芝を
敷きました。
まだ、4分の1程
度ですが、(変身中
です2、3年後には
全面芝生になるか
も?)

野外炊事場を利用
するお客様には、

それから、野外炊
事場の椅子やテーブ
ルも赤や青、緑のペ
ンキを塗りリリフォ
ムしました。カラフ
ルになりましたので
使ってみたりま
すよ。

ふおれすと鉱山の
グラウンドや野外炊事
場はどうなたでも利用
できますので、ぜひ
遊びにきてください。
お待ちしております。

ふおれすと鉱山の
野外施設、
ただ今変身中

鉱山案内

小川邦夫的

内

芝の中で食事をした
り遊んだりできるの
で、大好評です。
食堂からの眺めも
芝生の緑が目に映え
てチヨットよくなり
ました。
また、ひと気な
いときは、ハクセキ
レイ、シメ、キジバ
トなどが芝生で餌
(虫?)を啄ばむ姿
を見ることができま
すよ。芝生は野鳥に
も心地よいみたいで
す。

4月		
20	モモンガくらぶ主催「ワンディハイク」	春のお花を楽しみながら、川又温泉までハイキング。春の山菜の味も堪能しました。
29～5/5	GWスペシャルウィーク	モモンガくらぶ・市民の方たちと一緒に行なった大イベント。毎日親子連れなどで賑わいました。

4月 5月の すべての 活動状況

5月		
9	登別小4年生理科	春でてくるものを探しに森へ。サンショウウオのたまごなどを見つけました。
11	ふおれすと鉱山・ヨシキリの会共催「野鳥調査教室」	野鳥の調査を実際に体験し、野鳥を探しに森へでかけました。
15	幌別中1年生 炊事遠足	水生昆虫を探しに行ったり、MTBに乗って林道を走ったり。
18	ボーイスカウト	ドリームキャッチャー作りを楽しみました。子どももおとなも真剣そのもの。
21～22	主催事業「教職員向け指導者講習」	ふおれすと鉱山でできることを教員のみなさんと考えました。
23	西陵中3年生遠足	MTBで林道に出かけたり、森をつくるお手伝いをしたり。
24	モモンガくらぶ主催「野鳥の楽しみ方」	野鳥の声を楽しみながら、森へ。オオルリ・キビタキに会うことができました。
25	主催事業「鉱山町フワーソン2003」	鉱山町に咲く花たちをみんなで一斉に調査しました。
29	幌別東小1年生 総合的な学習	鉱山町にある春を集めてきました。秋の鉱山町では、なにが集まるのかな。
30	登別温泉小遠足	ウグイってどんな魚?婚姻色のウグイを探しました。
30	富岸小遠足	モモンガ博士のネイチャートークをきいて、川遊びにかけました。
31	主催事業「おなじみさんのための特別プログラム」	沢登りにチャレンジしたり、ヒグマ教室ではカルタとりを楽しんだり。

Let's co-laboration! Special Week ふおれすと鉱山のスペシャルウィーク

ふおれすと鉱山初の試み「スペシャルウィーク」が、ゴールデンウィークの一週間、モモンガくらぶ・市民の方々との見事なコラボレーションで実現しました。

「スペシャルウィーク」とは、ふおれすと鉱山で行なわれる遊びのお祭りのこと。ふおれすと鉱山に来ると、例えば縁日の出店のようにいろんな遊びが展開していて、自分のやりたい遊びに参加できるというかたち。

実に、ジツニ、さまざまな人が出揃い、さまざまな芸や技が繰り広げられた日々となりました。

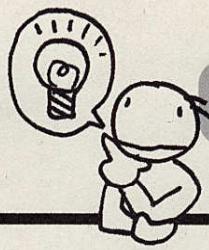
鉱山町に住む画家のおねえさんによる「油絵遊び」、鉱山町に住む近所のおじさんによる「サケの子どもたちにえさをあげよう」、子どもたちが地元の芸能を披露した「渓龍太鼓・鉱山獅子舞」、登別市の音楽家のおにいさんによる「A FORKLORE TIME」、登別市に住む野鳥調査人による「野鳥教室」「ガイドワーク」、モモンガくらぶの主婦たちによる「ササダンゴづくり」「野草茶作り」、多くの人の手を借りて仕上がっていった「手作りカヌー実演」、魚拓のプロが教える「魚拓教室」などなど。遊びの達人とのスペシャルな時間に子どももおとなもみんな活き活きしていました。

地域の子どもたちはのみんなで育っていく。そんな場にふおれすと鉱山がなればいいなと思っています。

余談ですが、おかげで「スペシャルウィーク」期間中のふおれすと鉱山来館者は、合計802名!

また夏休み（8月12～17日）もやりますよ。今度は、どんなスペシャルな一週間になるのかな?ぜひ遊びに来てくださいね!

(遠藤)



使える？ふあれすと鉱山 小ネタ集1

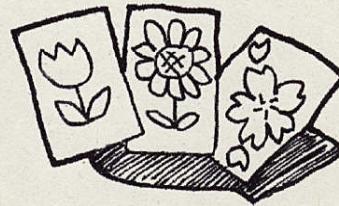
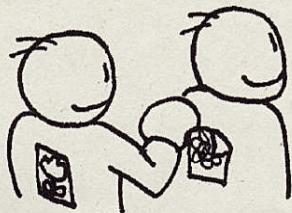
ふあれすと鉱山のプログラムは、小ネタ（アクティビティ）の連なり。
ここでは使えるアクティビティを特別にご紹介。

今回はプログラムの始まりに使うネタの紹介です。これがどんなプログラムをやるのかを共有すること、そして参加者どうしの緊張をほぐしたり（アイスブレイキングと呼びます）、プログラムへの熱意を高めるために使われます。

わたしはそれでしよう

例）これから花の観察をする。なんていう場合

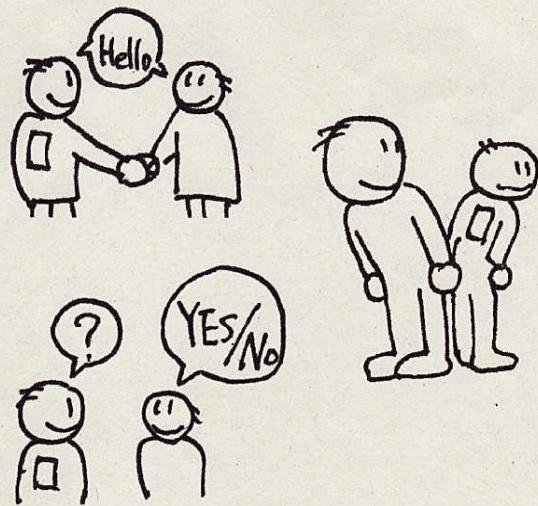
- ①参加者の人数分の花のカードを作ります。
コツはできるだけ多くの花の種類を書くこと。



- ②そのカードを参加者の背中に洗濯ばさみではさみます。
カードや洗濯ばさみがなければ布ガムテープを代用。
自分の花が何かは分からない状態です。

- ③合図で背中のカードの答えを考えます。一人で考えても仕方ないので周りの人人に質問します。
質問のルールは、

1. 「こんにちは」と挨拶して握手をする。
2. 「私はこんな花です」とお互いの背中を見せて自己紹介。
3. 「私は～ですか？」と質問。ただしこの答えは「はい」「いいえ」でしか答えることができません。質問が終わったら「ありがとうございました」で別の人へ。これは、参加者どうしを仲良くする目的があるので挨拶と握手は重要です。また、何度も同じ人に質問しないというルールも確認しておきます。



- ④答えが分かった人は司会者に聞きに行きます。当たっていればそこで終了。間違っていればまた質問の旅へ。

- ⑤分かっても分からなくても頃合いを見計らってゲームを終了し、自分の花を確認します。

- ⑥「あなたの花は、今日、見ることができるでしょうか？」という問い合わせで、「見れる」「見れない」「わからない」というゾーンに分かれてもらいます。「それじゃあ、そんな花は咲いているかどうか見に行きましょう。」とまとめて観察いでかけます。

この小ネタは野鳥、魚など、色んな場面に応用できます。
みなさん、授業や団体の活動などで試してみてください。

(上田 Program D)

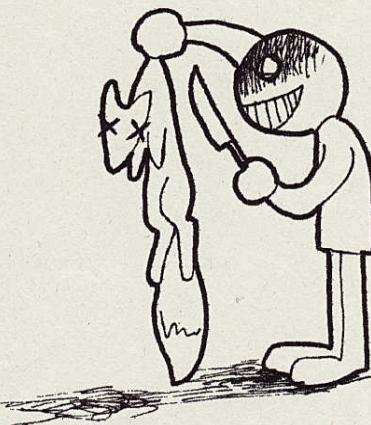
ほんねのアツク

①キツネの皮を剥いでいる自分について

ふおれすと鉱山の展示物は怪しいと言う人が多い。それはきっと、動物の死体から作られる物がたくさんあるからだろう。中には死臭を嗅がせるための展示もあるくらいだから、その展示群が他に類を見るのは確かだ。それらを作るのは、たいていは私の仕事になる。動物の死体を扱うのは、江戸時代では非人の仕事であり、社会の裏側の一コマだった。その流れを受けて、今でも皮革製造などの仕事をイメージできる人は少ないのでないだろうか。

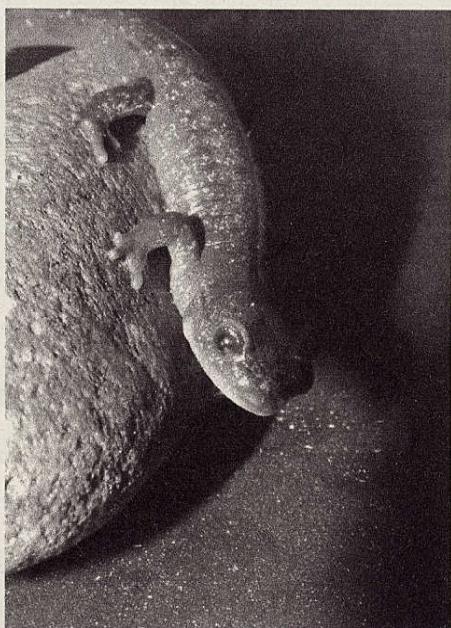
そんな怪しい、分かりにくい仕事を手がけているからか、時折私を「マッドサイエンティストだ」と呼ぶ人が出てくるようになった。私は動物の研究をしていた経歴があるから、普通よりも死体に縁があったというだけで、決してそれを扱う事は好きではない。特に動物を解体したときの血の臭いと臓物臭には慣れることがない。ともすれば変人扱いされがちの死体と向き合っている自分は、来た人にできるだけ動物たちのリアルを伝えたいと願う普通の人間にすぎないので。それなのにマッドだの変態だと言われているのは極めて不快だが、最近はそれが自分の売りなのか?と思ったりしている。

(H)



サンショウウオ ミステリー

もしやハカセの 森の秘密 森のひみつシリーズ⑤



これはふおれすと鉱山のエゾサンショウウオ。
おおきになりました。

春になるとあちらこちらの水たまりでサンショウウオを見かけます。彼らは卵を生むために、冬眠から目覚めた直後に水辺にやってきます。ですから、春先にはたくさん見られるわけです。しかし、産卵が終わると彼らは忽然と水辺から姿を消してしまいます。いったいどこへ行ってしまうのでしょうか。

サンショウウオは水中の生き物と思われがちですが、実は、産卵の時期以外は水辺に近寄りません。なんと、山の中に住んでいるのです。湿気が多く、落ち葉がスポンジのように深い場所で虫を食べて生活しています。それも、活動するのが夜間であるため、滅多に人に見つかることはありません。だから、夏のサンショウウオを見たことのある人は滅多にいないはず。ちょっと意外な彼らの生活、実は分かっていないことだらけなんです。ふおれすと鉱山に来たらじっくり観察してくださいね。

(檜山 Art D)

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

森の住人より

大村 朋子

「大村さんはふおれすと鉱山の職員なんですか?」とよく聞かれる。「そうです」と答える人も、実は違う。私は鉱山町の住人で、あそこへは絵を飾らせて頂いていて、週末の講座に出たり、スペシャルワークなんかはコレコレ然々…と、非常に長い説明をする。面倒なときはこの際、「スペシャルスタッフだよ!」(と訳の分からぬ)総称をするが、あまり分かっていただけない。もうどっちでもいいのだけさッ。

鉱山に住むようになっておよそ十年。その昔、鉱山は名の通り「金・銀・銅」が採掘できる町として大変な栄華を極めた場所であったという。私が訪れた頃には、何軒かの家がわずかに残されたのみで、もちろん「ふおれすと鉱山」などなく、鉱山小中学校跡地が、そのまま研修センターとして地元の人達に管理されていた。そこは本当にひっそりとした山里だった。

が、一方で驚くほど楽しい人がたくさん居る場所でもあった。絵の師匠をはじめ、金探しの名人や傷ついた狸を助ける仙人など、鉱山町はいつも変わった記事で新聞に掲載されていた。当時から自然環境を大切にしようという啓蒙活動は盛んだったが、私にとっては、今は生きその多くの先代からの教えが根付いている。

月日が流れ、世代交代はしたが、この自然だけはいつまでも変わらない。ふおれすと鉱山に多くのこども達の声が響くようになった今、今度は私が何を伝えていけるのだろうと思う。

…そう、何を言われようと私は「スペシャルスタッフ」であり続けたい。



その笑顔で鉱山を明るく照らす鉱山町のマドンナ。画家のたまご。すでに各地で展覧会・個展を開催。この夏は東京でも個展を開く。また、画業だけでなく、和太鼓やミュージカル、新聞のコラム執筆など、鉱山町を拠点に多彩な活動を展開している。

オススメBOOKS from STAFF



「あらしのよるに」
木村裕一：文　あべ弘士：絵
講談社

あらしのよるに、たまたま出会ったひつじとオオカミ。お互いが見えないくらいのまっ暗闇の小屋の中で、食う食われるの関係のふたりが、交わす会話。その会話が、とても絶妙。また、文中の言葉と言葉の間にある「空間」も、また絶妙。暗闇でのふたりの(2匹?)の様子も、手にとるように伝わってくる絵も、たまらなく、いい。

「あらしのよるに」は、「あるはれたひに」…と全6巻シリーズになっています。シリーズになっているときき、ついついがまんしきれず、「ふぶきのあした」まで、一気に立ち読みしてしまいました。あらしのよるに芽生えたふたりの友情が、お話を進むにつれて…。立ち読みよりも、おうちに帰って、お布団にもぐりこんで、ゆっくりと読む…これが、オススメですね。

EVENT INFORMATION

ふれすと鉱山の主催事業

イベントチェック

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| 8月7日（木） | 遊びシリーズ「コーナン全開遊び」
鉱山の川で思いっきり遊ぶぞ！ |
| 9月21日（日） | 子ども自然教室「魚を探そう」
魚を探しながら学んでしまおう！ |
| 9月14日（日） | 幼児シリーズ「かわらであそぼう」
親子で鉱山の川で遊びます。 |
| 10月19日（日） | 大人遊びシリーズ
「鉱山流秋の楽しみ方」 |

今年も ジュニアチャレンジキャンプ

8月1日（金）～8月3日（日）

今年の夏休みも思いっきり山の中で遊んでしまおう！沢登りや野宿をするぞ

好評！

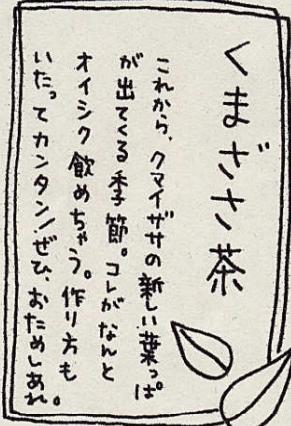
ふれすと鉱山のスペシャルウイーク

8月12日（火）～17日（日）

いろんな遊びを用意して待っています。
夏休みの自由研究もばっちり。

イベントのお問い合わせ・お申込みは「ふれすと鉱山」
TEL.0143-85-2569 FAX.0143-81-5808

まで、お気軽にどうぞ。



。。身近な野の草花を 食卓に。。

わいわい

【用意するもの】

緑茶・適宜

クマイザサの葉っぱ・適宜

。。。。。

①葉っぱをとてきて、2～3日新聞紙に広げて干す。

②葉っぱを細かく切る。さらに繊維にそって細かくする。

③フライパンで煎る。焦げめが少しつくくらいがオススメ。

④さます。保存するときは十分さます。

⑤そのまま、または、緑茶をあおぎて温めし、煮出で召しあがれ。

中火で10～15分



ふれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00～17:30 入館料・無料

休館日・毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります）

・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

カット（スズメ）
佐藤 南津子（モモくら）

EDITOR'S LOUNGE

最近新しい発見があった。川の水は冷たい。ふれすと鉱山の近くを流れる川の水は尋常ではないくらい冷たい。それは、瘦せぎすの僕の体にはいたく堪える。だから水にはいるのは嫌だ。でも一方で雪が好きな僕は寒い冬が来るのを心待ちにしている。寒いのは好きじゃないつもりなのだけだ。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.5

発行：2003年7月

発行所：〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号：0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail : kouzan@pluto.plala.or.jp

URL : www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm